

今、大山を超えよ

～難関を突破し、福を掴め～

浦和南高等学校進路支援部
令和7年度進路通信
第6号
2025年12月24日

<進路支援部主任より>

【3年次】いよいよ共通テストへ！ 受験勉強は団体戦！ 最後まであきらめずチャレンジを！

3年次は、いよいよ共通テストまで1カ月をきりました。試験が近づき、不安や焦りを感じてしまう人もいるかもしれませんが、そんな時こそ、入試までの日数を逆算して、やるべきことをコツコツと計画的に進めていきましょう。もし現状に悩んでいる人がいたら、今の学習のチェックポイントとして、次の5つを確認してみてください。

- ①問題演習をやるだけで、やりっぱなしになっていないか
- ②本番の入試の時間配分に合わせた練習は大丈夫か
- ③受験科目の学習のバランスは大丈夫か
- ④過去問を活かしているか
- ⑤生活リズムの乱れや焦りはないか

どうでしょうか。では、その解決策として、

- ①演習を振り返ることにより、自分の弱点・穴を発見し、それを補強していくサイクルが大切！ ヌケモレをなくす！
- ②入試の時間を意識した練習をしていこう。共通テストも時間内でどれだけ解けるか。ペース配分も意識して解こう。
- ③偏りすぎず、バランスよく学習していこう。特に苦手科目は集中的に対策を。
- ④過去問を解いた後、点数だけでなく、問題内容をしっかりと分析し、「問われ方」「出題の意図」を意識しよう。
また、合格に必要な点数との差や、時間配分も確認しよう。
- ⑤冬休みに入っても、規則正しい生活リズムが大切。学校のある日は、学校に軸足を置いて、いつも通りに過ごしていこう。それが平常心を保ち、健康面でもプラスにつながる。学校でなら、仲間とも頑張れる！

『現役生は最後まで伸びる！』 まずは、一般選抜の最初の関門である共通テストに向けて、しっかりといい準備をして1月17日(土)・18日(日)の試験に挑みましょう！ すでに進路が決まった人も、一般選抜で入学した仲間にも負けない学力をつけてください。そして3年間の学習の成果としてどれくらい取れるのか。共にチャレンジしてください。

『受験勉強は団体戦！』とよく言われます。共に頑張る仲間がいる。お互い切磋琢磨し、励まし合い、支え合い、受験期を共に乗り切りましょう。みなさん一人ひとりが、その「雰囲気・環境」をつくる一員です。このことを意識し、『チーム南高』でそれぞれの夢を実現していきましょう！

【1・2年次】文武自考・文武両道の秋になりましたか？

1年後・2年後の自分の姿を想像し、この冬休みを有効に活用しよう！

2年次は、研修旅行も終わり、いよいよ「2年次3学期＝受験生0学期」へ突入します。1年後の自分の姿を想像してみてください。共通テストは、国公立志望の人はもちろん、私大も共通テスト利用入試があります。進学を考えている人は全員が受験をすると考えてください。ぜひこの冬休み、自分の進路や志望大学、その入試科目について調べてみましょう。「情報は、自分からつかみにいく！」という気持ちが必要です。「受験生としての意識」「主体性」「アウトプットを意識した学習」を意識して、「受験生0学期」をスタートさせましょう。

1年次は、入学してから9カ月が経ちます。高校での学習スタイルは確立できたでしょうか？ また、日々の学習は継続できているでしょうか。この冬に、これまでの復習をしっかりと行って、今のうちに弱点を補強しておいてください。(1年のことは1年のうちに！)それが入試への土台作りと、2年次での飛躍につながっていきます。

1・2年次生ともに、目指す大学や目標が決まれば、それを達成するためにはどうしたらよいのか？ どんな入試方法があるのか？ どんな問題が出題されるのか？ 小論文や面接はあるのか？ 何が必要か？を調べ、研究してください。まずは相手を知ることが大切です。スタートが早ければ早いほど焦らず計画的に学習を進めていくことができます。そして意識高く学習が継続でき、モチベーションも上がります！

年が明けて1月には、課題考査、模試、英検など多くの試験があります。この冬休み、やるべきことを明確化し、具体的に計画を立てて、学力向上・進路研究に取り組みましょう。そして、目標への一歩を踏み出しましょう。それぞれが主体的に考え行動し、「伸びていく・高め合う集団！＝チーム南高」となって、充実した冬休みを過ごし、新年・そして3学期を迎えてください。(福田)

進路室開放日 12月25、26日(9時～12時) 1月6、7日(9時～12時)



大学入試共通テスト 2026. 1.17(土)~1.18(日)まで
あと **23** 日(12月 24 日時点)



【令和7年度社会探検工房】



『読売新聞社』に行ってきました！

南高探究プログラムの「社会探検工房」、今年度は本校生徒18名が、7月22日に、大手町にある東京本社を訪問しました。

- ①情報との向き合い方
- ②会社や新聞について
- ③社内見学
- ④社員の方との座談会
- ⑤社食体験



の内容で、新聞作りの現場に触れるとともに、情報や新聞との向き合い方について学ぶことができました。



以下の参加者のアンケートをもとに、ぜひ、情報や新聞について、考えるよいきっかけとしてもらえたらと思います！

【設問①】オープニングおよび講義「進路選択における情報との向き合い方」のお話を聞いて、よかったこと、学べたこと、感じたことを書いてください。

- 様々な情報が手に入りやすい時代だからこそ、自分がなにを信じてどのように判断する必要があるのか分かりました。
- 録音をすることは便利だけどそれだと20分話した内容を同じ時間で振り返らないといけない、だから記者はメモをしているということ知って記者の人たちが早く、簡潔に情報を伝えようとしていることがわかった。また、新聞の利点として、ネット上にはフェイクニュースがあるけど新聞はたくさん調べた上で正しい情報を載せているということがわかった。
- 答えのない社会の中で自分なりの答えを探していくことが大切だと学んだ。その答えに近づく手がかりにニュースを使うことができるとおっしゃっていて、新聞やテレビの必要性を感じることができた。
- 社会に出ると情報を上手に使いこなせる人が求められるとおっしゃっていて、そのためにメモを取ったりさまざまなことを読み解く能力が必要だとわかりました。
- 新聞社では具体的にどのような仕事を行なっているのか、「情報」に関する価値観などを学ぶことができた。新聞を作るだけでなくさまざまな事業と連携していて面白いと思った。
- 働くことに答えはなく自分で答えを見つけるしかないということです。自分の希望の進路に行けることが最善ですが、どんな進路になったとしても自分で正解にするというのを感じました。また、何かを判断するときにとえ誤っていたとしても後悔のない選択をと仰っていたのも印象的でした。
- 情報の取捨選択って大事だと思った。パッと、その情報を鵜呑みにせずその本質を見極めることが重要だとわかりました。



【設問②】会社見学ツアー(新聞教室、施設・職場見学)で、感じたこと、学べたことを書いてください。

- 会社の建物の作り自体にも仕事の効率化がされていて、多くの情報を取り扱うからこその特徴があり新しい発見が沢山ありました。
- 職場によって大事にすることや置いているものが異なることがわかった。新聞社はメ切のために時計が、速報を見るためにテレビがたくさん置かれていたし、全体を通して連絡が伝わり易いような工夫がされていてすごいと思った。
- 他の部署に入ってきたニュースを皆が気づくことができるように壁が無いと言う話を聞いて驚いた。また、締切を意識するために時計がたくさん置いてあるとおっしゃっていて、ストイックさを感じた。
- 新聞記者は思い込みで記事を書いてはいけないと言うことをクイズ形式で学べたのが楽しかったです。社内も新聞会社ならではの特徴がたくさんあって興味深かったです。新聞記者は決まった時間の出社や退社がないことに驚きました。
- 新聞記者は情報を収集して分析する能力や、色々な人に取材するためにコミュニケーション能力が必要だと思いました。
- 働くための環境づくりが徹底されていて素晴らしいと思いました。
- 新聞社ならではの施設に作りに驚いた。例えば、いつで最新の情報を見逃さないようにテレビがたくさんあったり、情報の交流がしやすいようにフロア全体で空間を遮るような高い柱や壁がないなど初めて知ることばかりだった。
- 生活専門や文化専門、スポーツ専門など、細かく分かれて作業していることに驚きました。新聞社に入るためには、知識が必要であり、入社後も学び続けなければならないとおっしゃっていて、大変すごいと感じました。

【設問③】見学後の座談会(4名の社員の方との座談会)で、聞けて良かったこと、ためになったこと、感じたことを書いてください。

- それぞれの部署での仕事へのこだわりが分かり、仕事に対しての熱意が伝わりました。また、皆さんがとてもわかりやすい受け答えをしてくださり、コミュニケーションの大切さも感じました。
- 自分の仕事や経歴を話しながらも高校生に「なんで外国人はネットニュースの方が好きだと思う?」「どうしたらもっと多くの人に紙の新聞を読んでもらえると思う?」など質問やメモをしながら話していて新聞をよりよくしたいという気持ちが伝わってきた。
- 新聞の存在意義について質問したところ、「新聞にはseeがある」という答えをいただいた。詳しく聞いてみると、テレビやスマホでは自分の見たいものだけを選び取って情報を得る「watch」の要素が大きいですが、新聞ではいろいろな情報が所狭しと紙面に並んでいるため、「see」の要素が入ってくると言うことだった。そうして出会うさまざまな記事を読むことで思考力が磨かれるとおっしゃっていてとても参考になり、面白かった。
- 最近では紙媒体がデジタル媒体に移行しているが、紙のものにはデジタルにはあまりない偶然の出会いがあるから紙媒体も大事にして欲しいと言う思いを聞いたことがとても印象的でした。新聞も良い号外が出たときは売れ筋が良くなると聞いて面白かったです。
- 社員には様々な仕事があり、それによって培われる能力や経験があると知りました。
- 紙の新聞を読むことで興味がある情報から気にもしていなかった情報までいろいろな情報を目にすることができ、ネットで情報収集するよりも多くのことを知れる。といったことを聞き、少し紙の新聞を読んできたくなった。
- 「記者」という仕事が具体的にどんな仕事なのかを詳しく聞くことができた。また、地方でお仕事をしていた時の体験談や印象に残った人などの話も聞けてすごく新鮮だった。
- 新聞社で働く人は新聞社で働くと高校生の進路選択の時点で決めているのかなと思っていたが、大学に入ってから決めたというお話を聞いて大学の進路を決めてから将来やることを決めても遅くないんだなと安心した。
- 新聞社に入るためにどんな学部に入り勉強したのかを知れたのが良かったです。



【設問④】今回の訪問・全体を通しての感想、学んだこと、ぜひ他の在校生に知ってほしいことを書いてください。

- 皆さんが丁寧に教えてくださり、仕事風景を見て、やりがいと向上心が働くことに対して大切なことだと感じました。
- ネットのニュースは自分の興味のある記事が出てきやすかったり、関連記事にすぐ飛べたりするという利点があるけど、新聞はネットとは反対に自分のあまり知らなかった分野の記事も目に入るから幅広く知ることができるということを知って、興味のある分野を広げるためにも新聞を日常的に読んでみたいと思った。
- 新聞を読むことで世間の情勢を知ることができるとともに、思考力を鍛えることができるという話を聞いて、新聞に興味をもちました。
- 世の中の色々な事に触れてみて自分が何をしたいのか考えたいと思います。
- 今回の訪問で、いかに正しい情報を得ることが大切かを学び、新聞を通じて人々に正しい情報を提供するという責任を担っている新聞社の重要性を知ることができました。インターネット上でも読売新聞の発信を行なっているそうなので、これから積極的に活用していきたいと思います。
- 新聞社の方達は大人になっても学び続け、正しい情報を読者の人々に届けています。新聞だけでなく、野球チームとも連携して、利益を得ていることを初めて知りました。前回参加した社会探検工房とは全く異なった学びや経験ができたので、参加したことない人は人生の先輩に聞きたいことが聞けるいい機会だと思うし、自分の知らなかった世界を知れて視野が広がるきっかけになるのでぜひ参加してみたいと思いました。また、一度参加したことある人でも異なる企業様に訪問できます。また違う新しい学びや経験ができるので複数回参加するのもいいなと複数回参加して感じました。

進路支援室に英字新聞あります！！



今年から、進路支援室で読売新聞の英字新聞『THE JAPAN NEWS』をとることになりました。特に社説(EDITORIAL)は、ほぼ毎年埼玉県立大学で出題されています(今年も出題されました！)。英字新聞から私は大きく分けて4つ学べることがあると思っています。

①語学力の向上

- ・語彙力アップ: ニュース記事は日常会話では使わない単語や表現が多く、自然な文脈で学べる。
- ・文法・構文理解: 実際の英文を読むことで、教科書では学びにくい自然な文章構造を身につけられる。
- ・リーディングスピード: 定期的に読むことで速読力が鍛えられる。



②時事問題・世界情勢の理解

- ・国際ニュース: 海外の視点で世界の出来事を知ることができる。
- ・多様な価値観: 日本語メディアとは異なる論調や文化背景を理解できる。



③批判的思考力

- ・情報の比較: 同じニュースでも国やメディアによって報道の仕方が違うため、情報の偏りを考える力が養われる。
- ・論理的な文章構成: 記事の構成を分析することで、論理的な書き方を学べる。



④専門知識の習得

- ・経済、科学、テクノロジー、文化など、専門的なトピックを英語で学ぶことで、専門用語や背景知識が身につく。

皆さんの進路実現のために、英字新聞を大いに活用してくださいね。いつでもお待ちしております！